

連載企画 「自治労ジェンダー平等推進計画」の推進に向けて

第1回 『LGBTQ+/SOGI』を知る

インタビュー 西山 朗 さん LGBT 法連合会 事務局長代理
Akira Nishiyama (she/her)

自治労は2023年8月の第97回定期大会で、「自治労ジェンダー平等推進計画」を決めた。一層の女性の運動参加を進めることで組織に変革を起こし、性的マイノリティを含むすべてのジェンダーに開かれた自治労と社会を創ろうという運動だ。この連載では、近年認知度が高まってきた「性的マイノリティ」についての正しい理解を広げ、深めることを意図している。第1回は、“『LGBTQ+/SOGI』を知る”をテーマに、LGBT法連合会の西山朗さんにお話いただいた。

LGBTQ+は人口の約8%

編集部 LGBTQ+という言葉は、近年日本でも広く聞かれるようになりました。まずはこの課題を語る時のカギとなる、LGBTQ+/SOGIという言葉の意味からお聞かせください。

西山 同性愛者などの性的マイノリティのお話をすると、「自分は会ったことがない」と言う方がいます。しかし、さまざまな調査によって、人口の約8%が性的マイノリティに分類できると言われています。これは、佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さんなどの日本人の名字の比率とほぼ同じです。左利きの人、血液型AB型の人と同じくらい、という言い方もあります。日本で暮らしていれば、お知り合いに佐藤さんがいない、という方はいないでしょう。「会ったことがない」のではなく、「会っていたけれどそうとは知らなかった」だけなのです。

「LGBTQ+」とは、性的マイノリティのカテゴリーの英語の名称の頭文字です。Lはレズビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシャル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（法律上の性と性自認が一致しない人）を指します。

そしてQとは、クエスチョニング（自身の性のあ

『性的指向』と『性自認』

り方について特定の枠に属さない人、わからない人、決めていない等の人）とクエア（規範的とされる性のあり方以外を包括的に表す言葉、Queer）を意味します。

レズビアン、ゲイ、バイセクシャルの3つは「恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか、向いていないか」という点からの分けです。性的指向（セクシュアルオリエンテーション）と呼ばれます。これに対し、トランスジェンダーは「どの性別を好きになるか」ではなく、「自分の性をどう認識しているか」＝「性自認」（ジェンダーアイデンティティ）と呼ばれる概念で、「性的指向」とは別の視点からの分けです。

LGBTQ+とは、前述のLGBTQと「その他多様なセクシュアリティを包括すること」を意味する「+（プラス）」を合わせた言葉で、「性的マイノリティ」の総称です。一方、SOGI（ソジ）という言葉は、セクシュアルオリエンテーション（Sexual Orientation/性的指向）ジェンダーアイデンティティ（Gender Identity）/性自認の頭文字です。SOGIは、性的マイノリティ以外の人も含むすべての人に関係する属性や特徴といった概念です。

性は4層構造 単純に男/女に分けられない

編集部 「性というのは男と女の2種類があり、生まれた時に決まっています。一生変わらない。そして異

性を好きになるのが自然だ」という理解が、今の社会では支配的です。

西山 性を構成する要素は次の4つがあります。

①法律上の性

出生時に割り当てられた性別をもとに戸籍等に記載された性別

②性自認 (Gender Identity)

自分の性別をどう認識しているか

③性的指向 (Sexual Orientation)

恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか、向いていないか

(注)「嗜好」(好み)や「志向」ではありません。

④性別表現 (Gender Expression)

服装や髪型、言葉遣い、しぐさ等、自分の性別をどう表現するか

例えばゲイの人であれば、②性自認が男性で③性的指向が男性になります。レズビアンの場合は、②③の性は女性になります。バイセクシュアルの人の場合は、自身の②性自認に関わらず③性的指向の性が男女双方に向かいます。

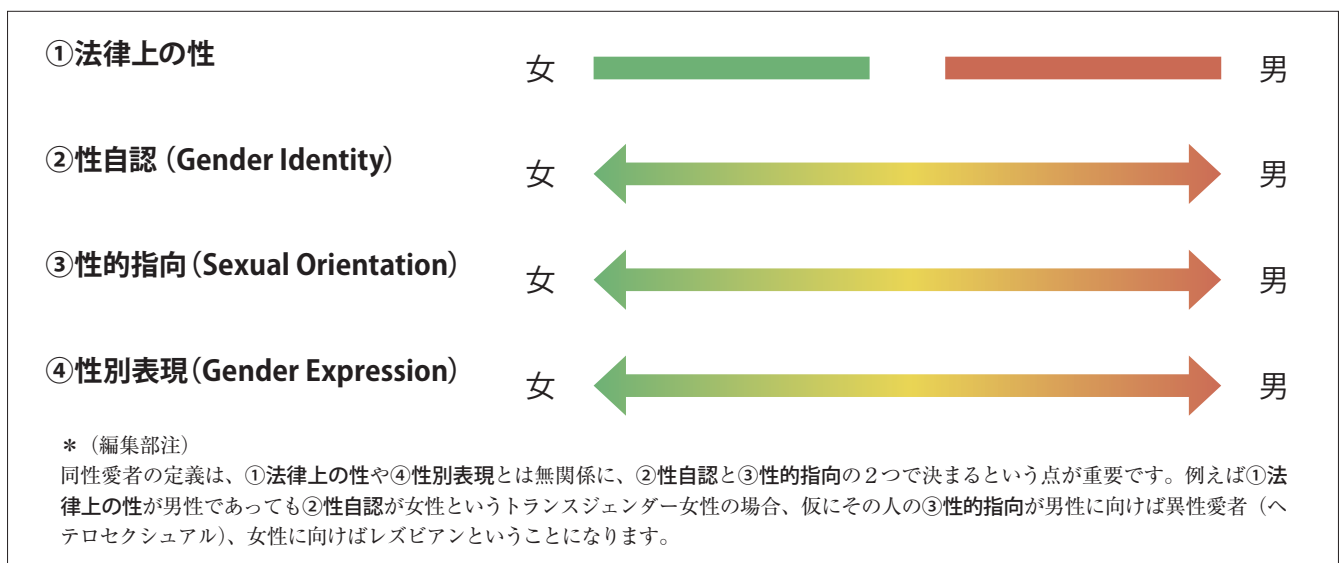
性的マジョリティ(多数者)の人は①法律上の性と②性自認が同じ性で③性的指向は異性に向かいます。

しかし、例えば①法律上の性が男性だからと言って、すべての人が②性自認も男性とは限りません。また、②性自認と④性別表現は一致していると思われませんが、一致しないこともあります。例えば、②性自認が女性でも男性的と言われる服装を好む人もいます。また、これら4要素の中のうち、「法律上の性」以外の3つについては人それぞれの濃淡があります。「性はグラデーション」と言われる所以です。

そして、これが重要な点ですが、②性自認と③性的指向は「自分の意思では変えられない」ということです。また、多数の人と違って、治療の対象ではありません。

同性愛者やトランスジェンダーであることは本人の選択ではありません。また、虐待や両親の離婚などがトラウマとなって、このようなセクシュアリティになるとする俗説がありますが、誤りです。

■ 性の構成要素



トランスジェンダーとその他のさまざまなセクシュアリティ

編集部 法律上の性が男性で性自認が女性あるいはその逆の、トランスジェンダーと呼ばれる人がいます。さらには自分を男女どちらとも思わないセクシュアリティの人もいると聞きます。

西山 人間の性を、スッキリと男性/女性のどちらかに分けることが難しい時もあります。人によって濃淡があり、また、性自認がうつろう人もいます。トランスジェンダーとは、①法律上の性と②性自認が一

致しない人のことを指します。これらの人の中には、手術やホルモン投与療法などで身体の性別の移行をする人がいます。しかし、性別移行する人は実は少数です。

また近年では、次のようなセクシュアリティがあると言われていています。これよりも細かい区分の考え方もあります。

X ジェンダー / ノンバイナリー

自認する性別が男女どちらでもない、どちらとも言い切れない人。あるいはいずれにも分類されたくない人。英語圏では主に「ノンバイナリー」や「ジェンダーキア」といった言葉が使われる。

アセクシュアル 他者に性的に惹かれない人

アロマンティック 他者に恋愛的に惹かれない人 パンセクシュアル

性的指向が性別にとらわれない人。全性愛者

さまざまなセクシュアリティに名前が付く、当事者が運動の中で名前をつかんでいったということは、当事者自身が「自分が何であるのか」を理解するという意味で、大きな意義のあることです。

自分を開示する『カミングアウト』の持つ意味

編集部 西山さんは、ご自身のセクシュアリティを明らかにして活動されています。これまでの歩みをお聞かせください。

西山 私はレズビアンです。自覚したのは小学生の頃で、女の子に心が引かれる自分があることに気が付きました。中学生になり思春期になると、周囲の友だちの間でも恋愛の話題が増えていきます。女友だちは皆、男子の誰それ君がカッコいいなどと言うのですが、私は、部活の女子の先輩などに心が引かれるので、「自分は友だちとは違うんだな」という感じを持っていました。

「3年B組金八先生」(放送2001～2002年/第6シリーズ)というドラマが当時、放送されていました。その中で上戸彩がトランスジェンダー男性を演じているのですが、それを見たときは「自分はこれじゃないか」と思ったのです。ただ自分は、メイクに興味がないスカートははきたくないけれど、ドラマの主人公のように自分の女性的な高い声が嫌だという違和感まではないので、「ちょっと違うな」とも思っていました。その後、高校生の頃、レズビアンという概念を知り、自分はレズビアンだという理解に落ち着きましたが、最初は、自分がトランスジェンダーなのかレズビアンなのかわからないで混乱していたのです。

自分がレズビアンであることを、初めて人に告げたのは20歳の時です。親友2人だけに話しました。実は、そのうち1人の子には他の友だちにバラされてしまって、『アウトティング』に会ってしまうのですが…。

転機はアメリカ留学でした。大学時代に1年間、アメリカのカリフォルニア州の大学に交換留学する機会があったのです。この時「自分を隠していたら友人関係を作れない。貴重な時間を無駄にしないよう、最初から自分をオープンにしよう」と決意し、自分の性指向を話すことにしたのです。幸いカリフォルニア州は

性的マイノリティの運動が盛んな土地でもあったので、すんなりと受け入れてもらい、安心して自分を隠さず留学生活を送ることができました。

日本に帰っても、自分を隠さないで生きようと思い、まず母に話しました。母は最初、大きなショックを受けたようです。LGBTQ+に対する正しい知識がなく、誤解や偏見が社会にある中では、親として心配して苦悩したということだと思います。

『カミングアウト』とは、英語の「coming out of the closet」から生まれた言葉です。「自分を閉じこめているクローゼットから出て、自分のセクシュアリティを開示しよう」という意味です。本人にとっては、自分の存在を可視化し、周囲の人との関係性を築くという意味があります。社会に対しては、性的マイノリティに対して差別的な法制度を変えることを求めるという意味もあります。

当事者が自らのセクシュアリティについて開示する「カミングアウト」とは別に、他人のセクシュアリティを、本人の了解なく第三者に知らせてしまうことを『アウトティング (outing)』と呼びます。近年、LGBTQ+ という存在への理解は進んできたとは言え、まだ偏見は根強く、学校でいじめられた、家族から拒絶された、職場でハラスメントを受けたなどの事例がたくさんあります。ゆえに、アウトティングによって自殺してしまう人もいます。とても危険性のある行為です。

アウトティング以外に気をつけるべきこととして、例えば、職場の飲み会などで、同性愛者やトランスジェンダーの人を侮蔑した「ホモ」「オカマ」といった言葉を使用しないことも重要です。また、普段の会話でも「彼氏/彼女」など異性愛規範を前提とした表現でなく、「パートナー」など、ジェンダーに中立的な言葉を使うという工夫もできるでしょう。基本的には性

的マイノリティかどうかに関わりなく、人同士の信頼関係、当たり前の敬意を持った接し方を心がければよいと思います。腫れ物に触るような過剰な気遣いは、不要です。

自分の周囲で「この人はもしかして、そうじゃないかな」と感じる人がいる場合は、本人が明らかにするまで待ってください。無理やり聞き出そうとしないでください。

きっとよくなると信じて生きて すべてのSOGIが尊重される社会へ

編集部 自治労の組合員にはLGBTQ+当事者もいます。性的マイノリティと性的マジョリティの双方の組合員に、最後にひとことメッセージをいただけますか。

西山 たくさんの性的マイノリティが孤立し、孤独に生きています。けれども、運動を通して、今の社会や職場はこれからきっとよくなると信じてください。大げさに聞こえるかもしれないけれど「死なないで、生きてください」と言いたいです。

私たちの運動は「性的マイノリティを理解し、尊重

してくれ」と言いますが、特権をよこせと言っているのではありません。「人によって異なるSOGIのありのままを認め、差別的な法律や制度は変えてほしい。性的多数者の人に認められている権利のレベルよりマイナスの位置にある私たちの権利を、プラスマイナス・ゼロにしてください」と訴えているだけです。多くの性的マジョリティの人がそれを理解し、『アライ』になってほしいと願っています。すべてのSOGIが尊重される社会をめざして一緒に運動を進めましょう。

次回の連載では、LGBTQ+の人たちが社会で直面するさまざまな差別や困難、とりわけトランスジェンダーの人に対する誤解、苛烈な差別と排除について論じ、克服の道筋を考えます。

Column

LGBTQ+を理解する用語の解説 第1回

LGBTQ+の課題を語るときに聞く言葉にはヨコ文字が多く、なんとなくとっつきにくい・難しいという印象を持つ人は少なくないでしょう。60年代のイギリス、アメリカでの同性愛者の運動から、世界に広がり深化してきた運動だけに、英語が多いのは仕方ないこと。よく聞く単語の意味を解説します。

シスジェンダー／ヘテロセクシュアル

「法律上の性」と「性自認」が一致している人をシスジェンダー、異性愛者をヘテロセクシュアルと呼ぶ。「シスでヘテロ」な人が「性的マジョリティ」。今の社会はこのSOGIを持つ人を「普通」とし、それ以外の人を差別・排除している。

レインボーフラッグ

LGBTQ+の多様性と連帯のシンボル。1978年のサンフランシスコ・ゲイ・フリーダム・デイ・パレードの日に初めて掲げられ、今日もレインボープライドの行動などで見られる。当初は8色だったが、さまざまな変遷を経て、今では6色(赤・橙・黄・緑・青・紫)が一般的となっている。赤は命、橙は癒し、黄は太陽など、それぞれ意味がある。この他にも、クイア、バイセクシュアル、ノンバイナリーなど、さまざまなセクシュアリティごとの旗のバージョンがある。

アライ (Ally)

多様な性のあり方に理解のある非当事者で、支援者、応援者のこと。

プロナウン (Pronoun)

本記事の西山さんの名前の表記の後に (she/her) とあるのが、それ。LGBTQ+運動で使われる代名詞のこと。名刺やメールの署名などに表記する。自身の性自認が女性の場合は「she/her」、男性の場合は「he/him」、女性・男性という枠組みに当てはまらないノンバイナリーの人などは「they/them」などを使う。代名詞を明確にすることで、自分が正しい代名詞で呼んでもらえる／相手が正しい代名詞で呼ぶことができる。また、シスジェンダーの人も含め全員が代名詞を明らかにすることで、代名詞は推測するものではなく相手によって違うという考えが標準化され、勝手な推測をなくしたり、ノンバイナリーの人が自分を明示しやすくなるなどの利点がある。